



『非文字資料研究』（旧『年報 非文字資料研究』）への寄稿について

人類文化の研究は、人間それ自身と人間が織り成す社会を研究することを目的とするが、その研究は文字で表現された資料を主な対象として行われてきた。しかし、人間の活動とその結果生み出されるものは、文字で記録されたものに止まらない。絵画・写真・映画・建築・民具・音声などの形で記録されたり、地形や景観あるいは人間の身体それ自身に刻み込まれたりもする。さらに、匂い・しぐさ・味覚・感触など「記録化」することが難しいものも、人類文化を構成する大事な要素である。

非文字資料研究センターは、そのような文字以外の記録及び文字では表現されにくい人間の諸活動を「非文字資料」として体系化し、それを研究する新しい方法を開発し、より包括的な人間と文化の理解にいたることを目指している。21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」（2003－2007年度）以来、わたしどもは、その目的を達成するために＜図像＞＜身体技法＞＜環境・景観＞のなかから研究課題を絞り込み、共同研究を展開してきた。この共同研究は、歴史学・民俗学はもとより、文化人類学、比較文化論、美術史、建築史、災害史、情報科学などを専門とする内外の研究者によって支えられてきた。

このように多様な学問的広がりをもつ非文字資料は、世界各国の地域文化の諸相を具体的かつ可視的に示す絶好の資料であるとともに、資料自体が多層的な時代・地域において蓄積されてきた背景をもっているため、研究方法としても比較歴史的な視点を求めるものであり、ひいては、人類文化研究の総合的・学際的な発展の可能性を有している。

しかし、研究資料の分析指標の設定、意味の解読という困難な作業には、研究概念と成果の普遍性が求められる。また世界共通の標準的・普遍的な研究資料の資料化・体系化を行うには、世界各地の関連学問分野の研究者による相互検証が不可欠である。本センターの研究活動においても、関係研究者との共同作業を必要としている。

『非文字資料研究』は、世界の各地域において活躍されている非文字資料研究者からの寄稿を歓迎し、本誌が多分野にわたる研究者相互の学問的遭遇の場として発展するとともに、人類文化の豊かな研究に寄与することを期待する。

2016年度より誌名を『年報 非文字資料研究』から『非文字資料研究』へと変更し、年2回の刊行となりました。寄稿をご希望の方は、当センターのホームページをご覧ください、執筆要項等の詳細をご確認ください。

エントリー募集期間：前期 1月～3月 後期 7月～9月

原稿締め切り：前期 5月末 後期 11月末

※原稿ご提出後、査読があります。

エントリー用紙：当センターのホームページよりダウンロードしてください。

執筆要項：当センターのホームページよりご確認ください。

表記・書式細目：当センターのホームページよりご確認ください。

エントリーシートの提出・お問い合わせ先：非文字資料研究センター

E-mail: himoji-info@kanagawa-u.ac.jp

ホームページ：<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

主な研究活動

運営委員会

2017 年度

- 第 5 回 2017年9月27日 (1)センター研究員人事について (研究協力者)、(2)2016 年度奨励研究者成果論文査読結果について、(3)海外提携研究機関からの招聘研究員について (新規)、(4)海外提携研究機関への派遣研究員について (新規)、(5)第 4 班・日本近世生活絵引班公開研究会の開催について
- 第 6 回 2017年11月1日 (1)2017 年度非文字資料研究センター予算執行状況について、(2)2017 年度研究班予算執行状況について、(3)2018 年度非文字資料研究センター予算 (案) について、(4)センター長選出に関する確認事項について、(5)センター研究員人事について、(6)仁川大学校中国学術院との学術交流の締結に向けて、(7)公開研究会の開催について、(8)2018 年度独立刊行物について
- 第 7 回 2017年12月6日 (1)非文字資料研究センター・センター長選出について

研究員会議

2017 年度

- 第 2 回 2017年11月1日 (1)2017 年度非文字資料研究センター予算執行状況について、(2)2017 年度研究班予算執行状況について、(3)2018 年度非文字資料研究センター予算 (案) について、(4)センター長選出に関する確認事項について、(5)センター研究員人事について、(6)仁川大学校中国学術院との学術交流の締結に向けて、(7)公開研究会の開催について、(8)2018 年度独立刊行物について
- 第 3 回 2017年12月6日 (1)非文字資料研究センター・センター長選出について

研究会

公開研究会

2017 年度

第 2 回公開研究会

「琉球・沖縄の御嶽と神社」 7 月 21 日

第 3 回公開研究会

「上海租界と外国人社会について」 10 月 28 日

第 4 回公開研究会

「日・韓の華僑と近代史

—仁川、横浜、神戸の華僑」2018 年 1 月 19 日

研究班研究会

2017 年度

第 5 班 東アジア開港場 (租界・居留地) における日本人の諸活動と産業

第 58 回例会 8 月 5 日

第 59 回例会 9 月 22 日

第 9 班 戦時下日本の大衆メディア研究 9 月 9 日

第 2 班 絵画・版画・写真に見られる 19 世紀ヨーロッパの都市生活 11 月 29 日

現地調査

調査テーマ	日程	場所	調査メンバー
戦時下日本の大衆メディア研究	7月21日～7月26日	山口県宇部市	新垣夢乃
中世景観復元学の試み—北九州市若松区の惣牟田集落を事例として—	8月2日～8月6日	北九州若松区	田上繁・萬井良大・三笠友洋・若宮幸一
第二期『東アジア生活絵引(中国江南編)』編纂のための基礎作業	9月6日～9月10日	北京・上海	鈴木陽一
日本近世生活絵引—行列から見る都市生活空間—	9月8日～9月9日	鹿児島大学・鹿児島県立図書館	小熊誠・駒走昭二・渡辺美季・富澤達三・得能壽美・小島摩文・橋口亘・上原兼善・丹羽謙治
近代沖縄における祭祀再編と神社	9月20日～9月23日	沖縄	後田多敦・津田良樹・中島三千男・前田孝和・菅浩二・稲宮康人・坂井能久
戦時下日本の大衆メディア研究	10月13日～10月16日	台湾嘉義県	森山優・新垣夢乃
東アジア開港場(租界・居留地)における日本人の諸活動と産業	10月13日～10月14日	大阪	大里浩秋
東アジア開港場(租界・居留地)における日本人の諸活動と産業	11月18日	神戸	大里浩秋
東アジア開港場(租界・居留地)における日本人の諸活動と産業	12月7日～12月11日	中国上海市	大里浩秋
戦時下日本の大衆メディア研究	12月16日～12月18日	兵庫県豊岡市	安田常雄・大串潤児・小山亮・原田広・鈴木一史・松本和樹

編集後記

今号は公開研究会のほか韓国や中国でのシンポジウム・研究会などの報告、コレクション紹介や関連論考、原田広氏の連載、研究員のエッセイなどを掲載しています。研究センターや研究員の様々な活動や研究を知ることができるだけでなく、東アジアの近代から現在の暮らしまで、話題も幅広く読み応えのある内容となりました。小さな世界を対象としている者からすると、時空が広く楽しいですね。ページを繰ると、中林広一氏のエッセイは神奈川大学新キャンパス敷地の話題、足元の土地の歴史を追っています。地盤と基礎は大事だと再確認しつつ、「非文字資料」という方法の広がりと同様性を実感しています。(A.S)

表紙紹介

表紙図像は本センター所蔵『風呂屋の大ちゃん』1943. 1. 20 (左)、『銅像物語』1943. 8. 25 (右上)、『大建設』1942. 3. 17 (右下)より掲載。銃後の敵国認識や自衛戦争観念、庶民の金属類回収運動が象徴的に描かれている。(H.H)